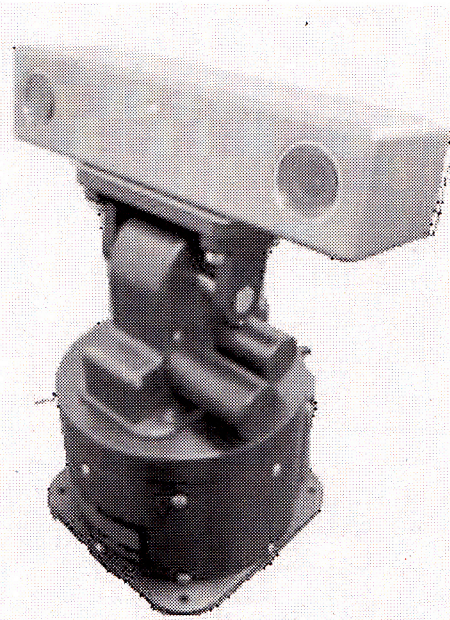


探訪 金沢大学

23

私の研究分野は「心身問題」の探求だが、人間の心についての研究はいまや、人工知能や認知科学、脳科学といった現代科学の連携のもとに進められている。哲学の中でも、心は物質的宇宙の一部(つまり脳活動の結果)であり、私はコンピュータやロボットも、うまく作りさえすれば人間と同じ思考や感情、意図を持つという立場にコミットしている。

ロボットにも心の実現を



研究に使われているロボット

らは継続して「意識と感情をもつ認知システム」、認知ロボットを科学研究費のもとで進め、いまは、幼児の共同注意現象をテーマとした4年間の研究課題「意図的主体性のロボットの構築に向けて」が始まったばかり

人間社会環境研究科 柴田正良教授

私は継続して「意識と感情をもつ認知システム」、認知ロボットを科学研究費のもとで進め、いまは、幼児の共同注意現象をテーマとした4年間の研究課題「意図的主体性のロボットの構築に向けて」が始まったばかり

私は継続して「意識と感情をもつ認知システム」、認知ロボットを科学研究費のもとで進め、いまは、幼児の共同注意現象をテーマとした4年間の研究課題「意図的主体性のロボットの構築に向けて」が始まったばかり

界 (possible world) という枠組みのもとでは、こうした物理的決定性は一部の可能世界群のなかだけで成立する「偶然的真理」にすぎないというテーゼである。

もう一つの広がりである倫理学では、物理主義が可能にする脳神経倫理学を経由して「脳科学の世紀における規範的倫理学」の構築を目指している。

脳神経倫理学は、倫理や規範といった現象を個々人の単なる脳活動の産物にすぎないものだと説明しうる可能性を開いた。しかし逆に、われわれは自分たちの倫理や道徳を「究極の根拠づけなき絶対的選択」として、自由に選び取ることができるとなる。

いかなる選択が人類にとって最も賢明なのか、それが私の倫理学の問いになっている。

いては先生によって言うことが違って何が正しいのか分からない」「震災直後の原発ニュースは専門用語ばかりで理解できないのに判断を迫られている気がした」など、原発や放射線の知識の持ち方について様々な意見が飛び交った。

パネリストには、全国の中高生が社会問題について討論する「子ども国会」の実行委メンバー2人も参加。その一人で最年長の筑波大学3年、森田聡さん(22)は「知識だけでなく、原発のメリットとデメリットを自分たちで調べてディスカッションするような考えをきっかけとなる教育が大事だ」と指摘した。

(成川彩)

義の今より

うから賞金の一部で車を借りて着ホテルは豪華なシャトーホテル。知ったがその一番安い部屋に泊っていた。彼はその頃台頭してきたの資本を上手に使い、ユダヤ的なコミュニケーション能力(7カ国語をた)を使って大ぶろしきを広げた一匹狼のマネージャーだった。もそんな彼がウィーン、ザルツツ、ベルリン、ロンドンと僕を紹介回ってくれた。無償で?と疑問にたが、なんと彼は過去にブラジルくさんの汚職で財を成したポーラ生まれのお金持ちユダヤ人だった。彼の年取った奥さんはかなりいアニスト、娘は最低な歌手もどその2人のためにレコードを作るに彼の情熱の全てはあったのだ。への愛? ふ~! 次週に続く。オーケストラ・アンサンブル金沢) 音楽監督)

たちが考える 震災 知識・判断は

日教組シンポジウム

大学生計7人。

震災遺児の募金活動に取り組んだ富山県魚津市立東部中学2年生の菊池勇さん(14)は「(東日本大震災から)少しの判断の違いで生死が分かれることを学んだ。しっかりと知識を持りたい」と話した。

福島県南相馬市から新潟



森田 聡

平野 咲子

小林 慧

に付いているり、自分たちどもたちへの

支援になります。全国の幼稚園・小・中・高校のうち2万8500校が参加、いまは公民館や大学、地域社会にも、活動の輪は広がっています。子どもたちの輝く笑顔のために、参加してみませんか。

お問い合わせは、電話=03-3572-4937 HP=http://www.bellmark.or.jp メール=toiawase@bellmark.or.jp